

Let's TANQ便り

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

今号の内容：

国語科・理科（化学） 研究授業の実践紹介

北海道教育委員会とプロジェクトとの連携における研究授業フロー

1. 北海道教育委員会による各教科授業改善検討チームの結成
2. 研究授業に向けた教材・指導案検討会を、授業改善検討チームのメンバーとプロジェクトメンバーで、4、5回実施
3. 事前に学習指導案等を配付、参加者は熟読してから授業参観
4. 研究授業前に、授業者から本時に関する説明
5. 研究授業の実施(Zoom配信)
6. 研究授業後に、振り返りと研究協議、本プロジェクト委員より助言

「書くこと」を通して、何を身につけてほしいのか、どのように評価するのか

国語科の研究授業で、「書くこと」に課題を感じておられた授業者が生徒とともにチャレンジされた様子をお伝えします。

授業者の願い・ねらい

国語科では、新学習指導要領において、適切な言語活動を設定し「国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力」を育成することが改めて求められている。また、スクール・ミッションの中に「創造性の育成」があることから、創作に関する学習活動を取り入れた単元「歌謡曲の世界観を短歌で表現しよう」を構想した。本単元では、短歌の創作と推敲を通して、生徒自身が表現したい想いを明確にし、それをどのような言葉で他者に伝えるかを検討するプロセスが重要なポイントとなる。指導案検討会では、生徒が創作した短歌を授業者はどのように評価するのが課題となった。この課題に対して、最初に詠んだ短歌を詠みなおして、その変容を短歌の創作意図が伝わるかどうかという視点で評価することを考えた。その際の評価の観点として「具体性の程度」「リズムや音の響き」「表記」を設定し、生徒と共有した。

本時は、4人グループで、短歌を評価し合う鑑賞会の時間となる。生徒には、詠み手の想いに即したよりよい表現を検討し合う学習活動を通して、自分なりの新たな表現の発見につなげてほしいと伝えている。生徒の思考する姿を見ていただきたい。

研究授業の様子

本時の特徴は、右の①～④からなる「グループ鑑賞会」を行うことにある。これを2回行った。

自身で詠んだ短歌を他の生徒と相互評価しながら、自身の想いがより伝わるための表現について検討する姿が見られた。それらをもとに、授業者は、生徒の活動に適宜介入しながらも、生徒に場を委ねている姿が印象的であった（左下写真）。授業の最後には、詠みなおした意図をワークシートに記述した。

- | |
|--------------------------|
| ①一人が自分の短歌の表現意図について説明（1分） |
| ②質問や改善点を考える（3分） |
| ③短歌の改善案についてディスカッション（10分） |
| ④「批評カード」に改善案を記入（3分） |

研究協議の視点

協議の柱は、「単元の中で、生徒の考えが深まる場面をどのように設定するのか」「生徒が創作した文学的文章をどのように評価するか」であった。参加者からは、「グループでいろいろな観点が出てくるほど、広がってはいくが、深まっているといえるのか」「意見を言うことのためにう生徒が多い中、お互いに批評し合える雰囲気をもとに醸成できるのか」といった意見が出され、生徒の姿をもとにした協議が繰り広げられた。評価についても多様な意見が出されたが、本プロジェクト委員より、「単元の途中、単元の終わりに、振り返る場面を設定することが重要で、それができたのは、単元を通して、授業を設計し、生徒と本時の目標や評価の観点を共有しながら進める工夫があったからである」とのコメントがなされた。



既存の知識を活用して、実験手順を検討し、実験を進められているか

理科（化学）は、課題に対して、実験手順を自分たちで考えて、課題解決に向かう授業実践でした。授業後の研究協議の様子をお伝えします。

研究授業の前に、授業者から、今までの取組状況、本時のねらいや授業展開はスクール・ミッションであるコンピテンシーの育成という視点を取り入れて構想したことなどの説明がなされた。また、指導主事からは、研究協議に向けて、授業をみるポイントが、以下のように示された。

- ◆ 生徒が主体的に学んでいる姿はどの場面でみられたか
- ◆ 実験手順を検討する際、対話的な学びになっていたか

研究授業後は、参加者の振り返りシートへの記入時間を確保し、授業者の振り返り、質疑応答を経て、指導主事からの問いかけに対して、参加者が意見を出し合う流れで研究協議を行った。

協議 1：「主体的・対話的で深い学び」がみられた場面・ポイントについて

- ・発問の仕方（数やタイミング）に工夫がみられ、生徒の主体性を引き出していたのではないかと感じた。
- ・金属板がどの金属かわからないところが、自分たちで解明したいという思いを引き出し、授業者から次々出てくる問いかけが生徒のモチベーションにつながっていた。
- ・教科書にある実験をそのまま実践することが多いが、実験手順についてじっくり話し合う設定がポイントだったと感じた。
- ・実験手順を考えるグループワークを通して、他者の意見を聴きながら、自分の考えを、責任をもって伝えようとしている姿が印象的だった。
- ・間違っただけでも口に出しても大丈夫だという雰囲気づくりが、学びの大前提にあると感じた。

協議 2：今回は実験手順を検討するグループワークがポイントになったが、グループワークについて考えていること

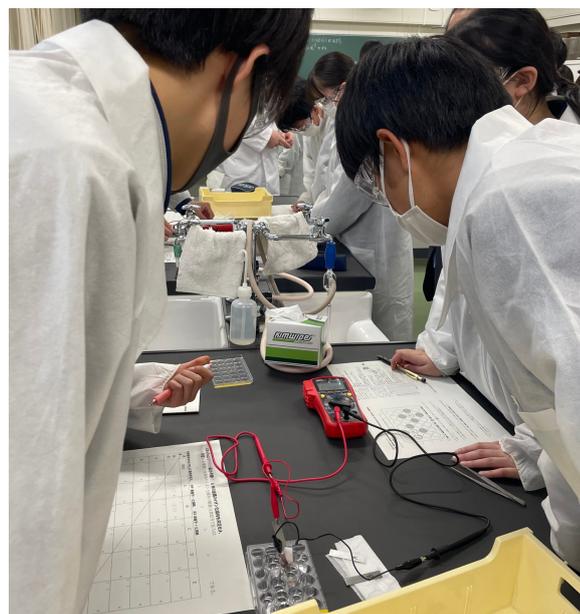
- ・普段からどのようにグループワークに取り組むかが重要となる。
- ・今回の話し合いの大前提としては、既存の知識だと感じた。
- ・グループワークは、一斉授業では得られない学びができる。授業を通して生徒同士の協働的な学びを確立していくことによって、学力が高い子もさらに伸びると実感した。

協議 3：今回の授業で、理科における「探究的な学び」と感じられたところはどこか

- ・なんとかしたいという課題意識から、自分たちなりに思考する姿が探究的に感じた。
- ・発問や少しずつ与えられるヒントによって、グループ内の議論が進んでいく様子。
- ・よい結果が出なかったグループに対しても、うまくいかなかった原因は何か？というスライドを提示されて、この授業だけで終わらせない工夫があり、生徒の悔しさを次につなげていく展開で、探究的な学びにつながっていると感じた。

協議 4：今回の授業について授業改善の視点について

- ・もっと自由度があっても良かった。時間的に厳しいが、生徒が疑問をもったとき少し時間をとることで深められる場面もあったのではないかと感じた。
- ・事前に実験の再現性等を検討し、金属板の種類や数を精査した方がよかったと感じた。
- ・本時の実験について、次の時間に振り返る時間を設定することが重要だと思う。
- ・実験に必要な基礎知識の復習が必要だったのではないかと感じた。生徒たちの習熟度を確認し、指導案を調整することが重要だと感じた。



理科授業改善検討チームをまとめた指導主事のコメント

このセミナーを10年近くやってきているが、研究授業に向けて、チームで、数か月かけて、指導案検討に取り組んだことは初めての取組であった。今日の研究協議は、例年以上にかなり活発な議論となり、参加された先生方にとって多くの示唆が得られた。指導案検討を通して、練り込んだ成果だと感じている。また、チームワークの大きさを実感し、チーム員の今後の実践は必ず変わると確信している。本気で授業を改善していこうと思うのであれば、継続した取組が必要だと実感した。若い指導主事を中心に、チームで授業をブラッシュアップしていく取組を、北海道中に展開していきたい。

